



幼稚園の園庭で遊ぶ子どもたち

しつけについての状況は、幼稚園・小学校・中学校と順に厳しくなり、その後また緩くなるといういびつな状況にあります。そのため、中学校での生徒の反発が多くなり、それが問題行動につながっています。幼少期から厳しくしつけ、自我が目覚める中学・高校から次第に自分の判断にまかせるように変えていく必要があります。

幼稚園・保育園・小学校・中学校とそれぞれ特色ある教育を進めていますが、その連携が十分でないために、一貫性のない面が教科・領域・総合的な学習の時間・行事などで多く見られます。



収穫した米をおにぎりにして食べる保育園児たち

小中学校では、学習指導要領がありますが、その内容をすべての児童生徒に確実に身につけさせているかと問われると、現実はそのようではないと言わざるを得ません。

連携が不十分な結果は、すべて中学校教育で明らかにになり、中学校教育がその非難的になってきている現状があります。

学力低下・学習意欲の低下・家庭での学習時間の減少など、学校だけではなく家庭での協力がなくては解決できない課題も明らかになってきています。

これからの学校には、各学校が特色ある教育活動を展開し、一人ひとりの能力や適性を伸ばす柔軟な教育への転換を図ること、自らにふさわしい生き方を実現するために必要な教養を身に付けられるようにすること、小学校と中学校が共通の学力観

に基づき継続的な指導で学力の向上と心身の成長を図ることなどが、保護者・地域・社会から期待されています。

二 ねらい

このような背景から、町内に一つしかない中学校の良さを生かし、〇歳から一五歳までの幼児・園児・児童・生徒を、一貫性があり学校・家庭・地域が連携した教育のあり方を明らかにし、生きる力を身につけた生徒の効率的で効果的な育成を目指します。

三 目指す生徒像

十五歳の阿久比町のすべての生徒に求める姿

自らを律し、自ら実践していく生徒

生きる力(「社会で役立つ学力」「社会で生きていく上で必要な人間性」「社会で生きていく上で必要な健康と体力」)を身につけた生徒

四 日程

- ・平成十七年十月二十八日 プロジェクト推進会議
- ・平成十七年十一月十六日 プロジェクト全体会議
- ・平成十七年十一月～平成十八年三月 研究部会ごとに研究
- ・平成十八年三月二十四日 幼小中学校教諭・保育士全体研修会(中間報告会)
- ・平成十八年四月～九月 研究部会ごとに最終報告作成

- ・平成十八年十月 プロジェクト推進会議(最終報告会)
- ・平成十八年十一月～平成十九年三月 実施に向けての準備
- ・平成十九年四月～ 全面実施



授業中の中学生

次号では、プロジェクトの研究内容についてお知らせします。

問い合わせ先  
学校教育課  
☎(48)1111(内202)  
阿久比町教育委員会のホームページ  
(<http://www.town.agui.lg.jp/kagakkyo/project.htm>)にも掲載しています。